

もりもり通信



2022年 夏号

八王子市議会議員

森ヨシヒコ市政報告



森 喜彦（もり よしひこ）1981年4月10日生
私立海城高等学校、東京都立大学法学部卒業。
八王子市職員を経て2019年より八王子市議会
議員（無所属・1期目）。総務企画委員、学園
都市文化ふれあい財団諮問委員、表彰審査委員
長を務める。清川町在住。

地域のかで八王子を元気に つくりよう 市民自治の豊かな社会

はじめに

世界的な原油高、コロナ禍による流通コストの増加に円安が重なり、物価高は昨年秋頃から始まっていたのですが、ロシアウクライナ戦争で状況は更に悪化しました。先の見えない不安が排外主義的な政策、自己責任を押し付ける社会を加速させるのではと危惧しています。

政府は金融緩和と円安を軸とするアベノミクスでデフレを脱却するとし、インフレ目標値を年2%と設定しましたが、円安で得られた企業の利益は有価証券や内外子会社への投資に回り、非正規雇用の改善や賃上げに向かいませんでした。結果、賃金水準は上がり、物価だけが上がる「悪いインフレ」となりました。アベノミクスが引き起こした人災と言えます。一人ひとりの所得を増やすだけでなく、育児や介護、医療など誰もが必要とする基礎的な公共サービス（ベーシックサービス）の充実を図ることで将来不安を払拭し、一人ひとりが好きなことにチャレンジできる社会にしていくことが求められているのではないのでしょうか。

八王子市議会第2回定例会

6月8日～6月24日の間、第2回定例会が開催されました。物価高騰は市の事業継続にも影響する問題です。補正予算では国の緊急補助金などを活用し、給食費の補填やごみ指定収集袋の確保を行いました。新型コロナウイルス対策関連では、ワクチン4回目接種の体制整備のほか、感染者対応業務の委

託、私立保育所の空調設備の更新、パラスポーツ用品の充実などの予算審議を行いました。

一般質問

①（仮称）八王子市男女共同参画社会をめざす条例
1999年6月、男女共同参画社会基本法の交付施行により、日本は世界と協調しながら性差別撤廃、男女同権の取り組みを推進してきました。しかし二十余年を経ても世界経済フォーラムが毎年発表する「ジェンダーギャップ指数」で日本は156カ国中120位、G7中最下位となっています。1989年の市議会議事録を読み返すと、男女平等の風土づくりを進めていくために、伝統的、固定的性別役割分業意識と社会的慣習の見直し、市民への意識啓発など、行政だけでなく全市民の協力が必要という発言が各所に見られます。長年にわたる運動で、男女平等は少しずつ前進していますが、問題の本質は変わっていません。

本市では男女平等にかかる条例制定に向け、昨年5月を皮切りに6回の検討会を開催、今年4月に条例素案を発表しパブリックコメント（PC）を募集しました。PCには80名超の市民から多くの意見が寄せられ、ジェンダー平等を求める市民の関心や期待の高さを感じました。

市では新年度から新条例を公布施行する予定です



一般質問の様子（八王子市議会ホームページのインターネット録画中継より）

が、新条例が理念条例のようなものにとどまることなく、実効性ある条例であることが重要です。市の責務や権限、事業推進の体制やチェック機能、市民の意見を反映する審議会、苦情処理制度など、具体的な手続きを条例に書き込むべきという趣旨で質問しました。

市からは、PCで大変多くの意見があることから、この条例に対する市民の関心の高さが分かった。頂いた意見を受け止め、庁内においても検討を重ね、実効性のある条例案を作っていくとの答弁がありました。

②会計年度任用職員制度

市民にとって身近な行政サービスの現場には、多くの非常勤職員や民間企業・団体の職員が働いています。全国的には地方自治体で働く人の4割が非常勤職員で、しかもその多くが女性によって担われています。バブル崩壊以降、官民間問わず日本のあらゆる分野に非正規労働が導入されました。非正規労働は働く人のライフプランやキャリアプランに大きく影響するにとどまらず、地域や世代間の格差、貧困の固定化、少子高齢化、内需の縮小など、今起きている様々な社会経済問題の原因となっています。同一価値労働同一賃金、雇用形態に関わらない均等待遇を求める考えが浸透し、パート労働法が施行されるなど、それらに対抗する社会的な動きもありますが、自治体の雇用は適用除外とされている事項も多くあります。2020年の地方公務員法改正により、自治体の非常勤職員制度は「会計年度任用職員」として任用条件が整いつつありますが、賃金水準や諸手当を中心に常勤職員や国の非常勤職員との差が大きな事項も多く、人材確保や公共サービスの安定を図る上で課題とされています。質問では、現行制度における給与水準の考え方、制度上の差異について確認し、地公法改正の趣旨に沿った対応や国の財政措置を要望しました。市側からは人事制度の枠組みは国、水準は都にそれぞれ準拠しているため、国や都の検討状況を注視し、制度構築を検討していきたいとの答弁がありました。

③地域の歴史文化の保存と図書館の活用

本市は将来にわたり持続可能な文化財の保存・活用を行うためのマスタープランとして八王子市歴史文化基本構想を策定しています。文化財そのもの

だけでなく、それに関わる自然環境や歴史的環境を背景に、人々の営みの中で生まれたモノやコト、人物など、文化財の周辺環境も含めて歴史文化資源と捉えており、私たちの生活や活動は連綿と続く歴史文化の一部と言えます。市内には町会や市民団体、学校や組合など、様々な団体があり、それぞれの活動を記録した資料がありますが、時代とともに劣化・散逸してしまうことが懸念されます。保存媒体も紙だけでなく近年はデジタル化されたデータもあり、保存や活用にも課題があります。公文書が市民共有の知的財産であるのと同様、団体や個人保有の私資料も将来にわたって保存活用されるよう、郷土資料館や図書館がどのような基準で資料を調査・収集しているのか。個人保管資料が適切に引き継がれ、調査研究している人が資料にアクセスできるよう、ネットワーク化していく方策などについて質問しました。

写真で振り返る直近の活動



今年の5月は三多摩メーデー、憲法集会、沖縄平和行進など、コロナで2年間中断していた活動が再開されました。



参議院議員選挙では全国比例区に挑戦した鬼木まこと候補（立憲民主党）を応援しました



6 / 19公共交通機関利用促進キャンペーン

Facebookでの発信も行っています。

ニュースに対するご意見や感想をお聞かせください。SNSでの発信も行っています。地域福祉ユニオン東京のアドバイザー組合員をしておりますので、育児・介護・障害・福祉分野の労働相談も随時受付しています。



〒193-0804 八王子市清川町19-10
電話：070-5580-6844
FAX：042-698-5013
メール：info@moriyoshihiko.net

